東京国税局管内納税貯蓄組合連合会　優秀賞

「笑顔をつなぐ、税金の優しさ」

船橋市立高根台中学校
第三学年　小池　優衣

私の大好きな祖母は、料理が上手で遊びに行くといつも美味しい食事を用意してくれ、裁縫も上手で小学校の手提げ袋などは全て作ってくれました。そんな祖母はもともと腰が悪かった上に圧迫骨折し、歩くのが困難になっていました。毎日習い事に出かけていたのに、外に出るのも困難。大好きだった料理もできなくなり、家事もできない。そんな祖母は痛みが辛いだけではなく、精神的にも追い込まれ、見ていてもつらいものでした。

そこで両親は祖母の介護保険の認定をしてもらう事にしました。手続きには色々大変そうでしたが、介護保険で家の玄関や階段やトイレに手すりを少ない金額の負担で付けてもらうことができました。また、布団で寝ていた祖母は起き上がるのも大変だったのですが、介護用ベッドを借りる事で寝起きが楽になりました。そして、家の中から出られなくなっていた祖母は今、毎週一回デイサービスに行っています。スタッフが家まで車で送迎をしてくれて、行けば体操や趣味の物をして過ごすそうです。お友達もたくさんできて祖母の顔もだいぶ明るくなりました。介護保険のおかげで祖母の生活も大きく変わり、家族の負担も軽くなりました。

私は介護保険について、このような制度があることを詳しく知りませんでした。介護保険は四十歳以上の人が加入する社会保険制度で、介護や支援が必要になったときに必要なサービスを受けられる仕組みです。二〇〇〇年に始まり、介護にかかる費用を社会全体で支え合うことを目的としています。

この「社会全体で支え合う」ための大切な源となっているのが、私たちが納めている税金です。介護保険のサービスは、利用者の自己負担だけでなく、多くの人の保険料や国・自治体の税金によって賄われています。もしもこの制度がなかったら、祖母の笑顔は見れなく、私達の生活は経済的にも体力的にも、とても苦しいものになっていたはずです。

両親は給料明細を見て「またたくさん引かれている」と肩を落としていて、私にとって税金はマイナスなイメージしか持っていませんでした。しかし、祖母の明るい笑顔が戻り、家族に笑顔が増えたのは、見知らぬ誰かが納めてくれた税金のおかげなのだと気づかされました。税金は、大切な人の「笑顔」を守るための優しい仕組みなのだと思います。

私も将来、社会の一員としてしっかりと税金を納め、今度は私が誰かの笑顔を支えられる大人になりたいです。